第 11 分科会「環境」　運営概要

【研 究 課 題 】「自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方」

【研究の視点】１　教科・領域等との関連を図った環境教育の推進
　　２　多様な体験的な活動を通し，実践的態度の育成の充実

Ⅰ　分科会研究協議の運営計画

第９分科会の趣旨
　子どもが体験的活動を通して身近な環境や環境問題に関心をもつとともに，人間と環境についての理解を深め，環境についての正しい知識や見方・考え方を身に付け，自然環境を大切にする心と環境保全のため主体的に行動する子どもを育む校長の役割や指導性を学校経営の視点から明らかにする。

【研究の視点１について】
（１） 教科・領域等との関連を図った環境教育の推進
　① 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等の関連を図り、全校体制で取り組む環境教育の推進
　② より良い環境づくりや環境保全に主体的に取り組む態度と能力の育成

【研究の視点２について】
（２）多様な体験的な活動を通し，実践的態度の育成の充実
　① 体験的な活動を重視し，問題解決的な学習や実践的な活動に取り組む教育活動の充実
　② 家庭・地域・関係機関との連携を図り、環境保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動の工夫

Ⅱ　昨年度の課題

道小教育研究上川大会から
＜成果＞
・環境教育に関する実態調査や理論研究により、管内の傾向と課題が明らかになり、ねらいや重要性の共通理解が図られ環境教育に取り組む一つの指針となった。
・環境教育を教育課程の中に明確に位置付け、総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動等との関連を図った全体計画を作成することにより、学習の一層の深まりが生まれている。
・教職員が地域の特色を生かした環境教育全体計画の作成に関わることにより、実践意欲が喚起され指導体制が向上した。
・地域の自然や身近な環境を効果的に活用した体験的活動を通し、児童生徒の環境保全に対する意識や実践的態度が身に付いた。
・異校種間や家庭・地域・関係機関との連携を密にすることにより互いの役割が明確となり、より実生活との関連付けが生まれ、連続した活動の充実が図られた。
＜課題＞
・身近なところから自ら環境保全に取り組もうとする実践的態度を育てるために、地域の特色を生かした価値ある多様な体験活動の工夫が必要である。
・環境教育における全体計画の整備と教育課程への確かな位置付けから学校全体での指導体制を十分に整えていく必要がある。
・総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動等との関連を一層図るとともに、実践力を育てるための指導計画の改善に常に努めことが大切である。
・学びの連続性と継続性を図るため、学校が主体となった家庭や地域・関係機関などとの連携が重要となる。

Ⅲ　研究発表の概要

研究課題　『自然環境を大切にする心と実践力を育てる環境教育と校長の在り方』
研究発表　『エネルギー・環境教育の推進と校長の関わり』
渡島地区　松前町立松城小学校　福原　　至　校長

１　研究の取組
（１）研究課題を次の２つの視点から検証する。
・環境教育の推進と教育課程などの学校の指導体制づくりにおける校長の果たすべき役割と指導性
・体験活動など環境教育の実践的活動の充実に果たすべき校長の役割と指導性

（２）研究内容
・調査研究･･･エネルギー教育の指導に係る調査分析①校長の意識や考え方②児童への指導に活用する資料についての考え方や校長としてのリーダーシップ③エネルギー教育の実践と校長の果たすべき役割
・経営研究･･･エネルギー教育に関する校長の役割や指導性①エネルギー教育に関する指導資料の作成など
・実践研究･･･指導資料を活用したエネルギー教育の推進①指導資料の活用、実践例の紹介など

２　まとめ（成果と課題）
＜成果＞
・今日的な課題であるエネルギー教育について調査研究を行い、校長の意識や考え方を具体的に把握できた。
・渡島小中学校長会として指導資料を作成することにより、各校における実践化を図ることができた。
・全道の小学校長がエレルギー教育に取り組む一つの指針ができた。

＜課題＞
・小学校としての実践を進めているが、本来、エネルギー教育は小中学校が連携して進めるべきものであり、今後、取組を拡大させていく必要がある。
・エネルギー教育の内容は多岐にわたる中、内容をかなり絞った調査・経営・実践研究となっていることから、今後の社会の動向を見定めて、内容を充実させていく必要がある。

Ⅳ　協議の流れ(13:00~16:30)

１．趣旨説明
２．研究発表
３．研究発表への質問・感想などを受け全体協議
４．後半のグループ協議（５～６人で１グループを編成）　３．からの課題などを受けて

【グループ討議の柱】

（１）教科・領域等との関連を図った環境教育の推進
①環境教育の取組に対する校内体制をどう進めたか。
②教育課程への環境教育の位置付けや成果の検証をどう進めたか。

（２）多様な体験的な活動を通し，実践的態度の育成の充実
①環境教育の実践力を育成するためにどのように関わったか。
②家庭･地域･関係機関との連携をどう進めたか。

５．グループ発表
６．全体会
７．研究協議のまとめと今後の課題

お願い：グループ協議で使用しますので，名刺をご持参ください。

（文責：　札幌市立西岡小学校　浦田　日出雄）